

平成 22 年度 経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した、主な取組事例

	経営協議会の学外委員からの意見	意見に対する対応
第一回	○産業界のリーダーとなれる人材の育成にも力を入れてほしい。	<p>リーダー育成に関する意見について、以下を実施した。</p> <p>○学生支援G P「出る杭を育てる～企業で女性が輝くための学生支援」の取組みの一環として、働く力（持続して働き続ける力、マネジメント力）の育成を目的に、平成 22 年 9 月にタイアップ・キャリアセミナーを実施した（学部生・大学院生計 18 名参加）。</p> <p>同セミナーでは事前研修と 2 日間に渡る合宿研修を開催し、本学OGを含む計 6 名の講師により、リーダーシップの重要性や女性が才能を発揮できる組織・社会作りについて研修を行った。</p> <p>○また、大学生の就業力育成支援事業「女性リーダーのためのコンピテンシー開発」を平成 22 年度より開始した。中心となるのは、学生自身が、多様化する女性のキャリアや生活をみすえながら、意欲的・計画的に大学での学修をすすめるためのキャリアデザイン科目群である。現代社会の諸課題を解決する新たなリーダー育成を目標に、コンピテンシー（知識や技能を組み合わせることで成果を生む包括的能力）の開発を目指している。</p>
	○国際化の問題として、特に女子大は留学生を率先して受け入れられるような体制作りに積極的に取り組むべきではないか。	<p>留学生受入れのための体制作りに関する提言を取入れ、以下を実施した。</p> <p>平成 23 年度の本学の留学生受け入れ状況は、大学院生については 18.4%である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 交換留学生をさらに受け入れるために 7 大学（チェンマイ大学（タイ）、カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）、国立ナポリ大学オリエンターレ（イタリア）、ブレーメン応用科学大学（ドイツ）、復旦大学（中国）、ボルドー大学（フランス）、韓国芸術総合学校舞踊院（韓国））と新規協定を締結した。</li> <li>2. 交換留学生募集の対象を特定の大学から全協定校に拡大した。</li> <li>3. 国内の進学説明会及び上海・バンコク・チェンマイの留学フェアで本学の広報を行った。</li> <li>4. 平成 23 年度実施予定の英語による夏季短期プログラムに着手した。</li> </ol>
	○広報活動については、「広報戦略」というものをおおもとに据えて、積極的に推進してほしい。	<p>広報活動の推進に向けて、広報媒体（広報誌、大学HP、大学紹介ビデオ、大学グッズ）を統一的に強化し、より有効に活用していくことを広報戦略として位置付けし、以下を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広報誌について 附属学校園を含めた大学全体の大学広報を推進するため、大学広報誌「学報 GAZETTE」の編</li> </ol>

		<p>集方針を見直し、平成 23 年 3 月号から「附属学校園からのお知らせ」ページ（四季・持ち回り）を設けた。また在学学生を学生記者として、学生からの目線による取材を行い、記事を掲載した。</p> <p>2. 大学ホームページについて</p> <p>国際広報を推進するため、大学ホームページ英語版に加えて、中国語版（簡体・繁体）、韓国語版の構築を開始し、平成 23 年度の公開に向けて、ホームページのリニューアルも併せて整備を進めた。</p> <p>3. 大学紹介ビデオを配信</p> <p>国際広報推進のために、平成 22 年 4 月に大学紹介ビデオ（日本語版・英語版）を大学ホームページおよび You Tube で国内外に向けて発信した。</p> <p>4. 「新お茶大グッズ」開発</p> <p>大学関連商品開発管理会議（大学・生協・お茶の水学術事業会）を設置し、お茶大ブランドとしての「新お茶大グッズ」の開発を推進し、平成 22 年 10 月にトートバッグ、ポーチ、名刺ケース、Tシャツ、ノートの 5 種を販売、平成 23 年 3 月にはノート、マグカップ、パスケース、ペーパーウエイト、キーホルダー、ボールペンの 6 種を生協で販売し、大学広報を推進した。</p> <p>さらに、開発途上国の女子に教育の機会を提供するための長期奨学金に寄付される「寄付付き商品」（NGO Room to Read ルーム・トゥ・リード）も併せて実施した。</p> <p>5. 卒業生調査に基づき、ネットワークを構築する。</p>
	<p>○女性リーダーを育成していくことは企業にとっても、多様性という観点で、今後の国際競争力をつけていく中でも非常に有益なことであるので、是非アピールして、高い目標を学生に与えてほしい。</p>	<p>女性リーダー育成に関する提言について、「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」事業（特別経費）において、女性の能力開発のための 3 つの施策を実施した</p> <p>①リーダーシップ教育の理論構築</p> <p>②国際的ネットワークの構築</p> <p>③国際水準の女性研究者の育成システムの構築</p>
<p>第 二 回</p>	<p>○概算要求では大学の教育研究が本来自由であるべきことを念頭に、大学の特色を強く打ち出したものとしていただきたい。</p>	<p>概算要求に関する提言を基に、以下を実施した。</p> <p>○平成 23 年度概算要求、特別経費（プロジェクト分【継続】 7 件、同【新規 5 件】及び基盤的設備等整備分 3 件）は本学の特色として、女性リーダー教育、食育、乳幼児教育、生活者、新たな学士課</p>

		程教育などの観点を活かした要求となっている。
	○大卒者が短期間で転職する例が多い現実を考えると、女子大の特性を生かし、お茶大が卒業生に対し、卒業後も支援するというメッセージを出していくことを検討していただきたい。	卒業・修了生の就職に関する提言を取入れ、以下を実施した。 ○卒業・修了生の専用就職窓口を設置した。
	○お茶大の卒業生は、企業内での同窓のつながりが弱い、社会で活躍する卒業生を知らないという現実を考えると、大学を起点としたネットワークづくりが必要である。	同窓生ネットワークの構築に関する意見について、以下を実施している。 ○OGデータベースを活用して学内にOGを招き、学生とOGが交流できるようにしている。平成22年度は、学内OG懇談会を全12回開催し、多数の学生が参加した。

第三回	○冠講座による講座開設を含め、欧米のような寄附文化が定着するよう、努力すべきである。	寄附事業に関する提言に沿って、以下を実施した。 ○全学体制での寄附事業を推進するため、企画経営統括本部の下に、「寄附事業推進会議」を設置し、寄附に関する現状調査及び分析、新規寄附事業（各種基金の設置を含む。）の企画及び立案について検討することとした。
	○リーダーシップ養成が、企業や学生のニーズと合っているのかを検証していただきたい。	修学に関する提言を取入れ、以下を実施した。 1. 学生の就業力を高めるため、全学共通科目・キャリアデザイン科目群を設置することとした。 2. リーダーシップ養成教育研究センターで実施している学部授業「お茶の水女子大学論」、「女性リーダーへの道」、大学院授業「アカデミック女性リーダーへの道」等の授業において、履修学生に対してのアンケートを提出してもらい、今後の授業内容における参考としている。

第四回	○大学憲章について ・男女共同参画社会に寄与することや、社会の動きに連動していること、コーポレーションアイデンティティーというイメージ	大学憲章に関する提言について、以下を実施した。 ○大学憲章（案）については、経営協議会委員より「本学では、附属学校が同じキャンパスにあることが特徴的であり、これを強調する必要がある」との提言を受けて、これらを内容に反映させた。また、大学憲章の広報方法としても、「パンフレットを作成し、主要な行事等に配付したらどうか」
-----	--	---

<p>を含めて、お茶の水女子大学のイメージを喚起できるものを考えてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 大学の本来のあり方、方向性を示すことは大きなメリットがあるのではないか。</li> <li>• 大学憲章は堅苦しいものでもやむを得ないが、パンフレット等を作成してもよいのではないか。</li> </ul>	<p>との提言を受け、大学、大学院の平成 22 年度の卒業式において、作成したパンフレットを卒業生や保証人に配付した。</p> <p>附属学校を含めた新入生や在学生については、平成 23 年 4 月入学式から配付を開始した。</p>
<p>○就職の問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在の学生は、コミュニケーション能力、基本的な点がものすごく落ちているということを非常に感じている。大学においてコミュニケーション能力を最もよくトレーニングする場所はゼミだと思うが、大学としての方針はどのようになっているのか。</li> </ul>	<p>就職に関する意見について、以下のとおり取組みを回答した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 対人的な意味でのコミュニケーション能力の向上というのは、広い意味での教育の一つの柱として重視していきたい。現在「大学生の就業力育成支援事業プログラム」の中に、人的な、異質な他者とのコミュニケーションの取り方を授業の中に取り入れている。</li> </ul> <p>また、新しい学生寮で共有スペースに生活の軸足を置き、他者とのコミュニケーションを日常的に行われるような仕組みを考えた。また、大学として、最も重要なことは通常の授業を通じたコミュニケーション能力の育成であり、本学は全体として小規模の授業を行なっている。そして基本は少人数ゼミを重視する方針である。</p>